

## 熊本大学学術リポジトリ

## Kumamoto University Repository System

Title	雪竹梅
Author(s)	小林, 章
Citation	龍南, 209: 23-24
Issue date	1929-02-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/9054">http://hdl.handle.net/2298/9054</a>
Right	

# 雪竹梅

小林章

## 御大典當日詠める

靜かなる秋日和かも竹の葉に松茸飯を提げ包みぬ

今日こそは天つ日嗣の大典日山にわけ入り茸探りけり

青竹<sup>タケ</sup>を切りて宿の子供ら遊びある庭へ寂しも晝たけにける

## 鄂新年詠

廿一なにとはなくに新なる望み湧きいで年を迎へぬ

元旦のこのしたしさや老伯母と雑煮を祝ふ雪は降りつゝ

井釣瓶に降りつむ雪を拂ひつゝ顔洗ひけり年の始めに

元日のこゝろ落ちゐて老伯母と朝の屠蘇を稍に過しぬ

老伯母のさきくむ屠蘇を笑ひつゝ稍に過しぬ我れ酔ひにけり

井筒洩る水の音かそけさ物洗ひ老伯母は明日の支度をすなる

餅焼きて今宵は夜なを語りなむ外面静けし雪滑る音

この朝肴戸田に降れる雪寒し庭の乾土に鶏を放つ

凍てかへる朝<sup>イシタ</sup>の土に鶏を放ちやりつゝこゝろ落ちつく

ふるさとの庭に紅梅大きく蕾あまたに年を迎ふる

二つ三つ大蕾は冬空に花を保ちて年を迎へし

## 街に歸りて詠める

家並はみ雪降りゐて新なる年の始めの街のしづけさ

はしけやし童兒あまたい群れあて破竹は高く雪にはね  
居り

歸り來て亦落ちつかず雪降れる街の正月朝立ちにけり

雪晴れて向つ山並陽のかげり明るき街の今日立つ日

弟と爆竹ならして遊びけり雪の朝アサタの街の正月

× × × × ×

なにもかも未だ解らぬ吾れなれど文藝員てふ聞きのよ  
ろしさ

(四、一、八)